

社会貢献フォーラム「次世代につなぐ知見のバトン～震災の記憶と教訓を後世に伝えるために～」



震災の記憶と教訓をいかに伝えるか、話し合われたパネルディスカッション＝神戸市中央区、神戸新聞松方ホール

阪神・淡路大震災から29年が経過し、風化しつつある震災の記憶をどのように次の世代につなぐかが求められている。同じような被害、つらい思いを繰り返さないようにするために、私たちにできることは何かを語り合う「社会貢献フォーラム in 兵庫」(一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構、神戸新聞社など主催)が、このほど神戸新聞松方ホールで開かれた。また、会場では「117KOBEBぼうさい委員会」に参加している大学生が、防災ワークショップを行った。(文中敬称略)

周囲に世界に語り続ける

パネリスト
 神戸学院大学現代社会学部 社会防災学科教授 船木 伸江氏
 兵庫県遊技業協同組合理事長 平山 龍一氏
 神戸新聞社論説委員室副委員長 長沼 隆之氏
 気象予報士・防災士 蓬菜 大介氏
コーディネーター
 フリーアナウンサー 村松真貴子氏



長沼隆之氏



蓬菜大介氏



村松真貴子氏

村松 震災から29年がたつ、いま一度震災に備える気持ちを新たにしたい。皆には、震災の時にホールや駐車場の開放を促すので、事前に伝えておきたい。いざという時に人を助けるために何が出来るかを一人一人が常に考え、行動できるようにしたい。皆には、震災の時にホールや駐車場の開放を促すので、事前に伝えておきたい。いざという時に人を助けるために何が出来るかを一人一人が常に考え、行動できるようにしたい。

長沼氏 住宅の耐震化を強く訴え 蓬菜氏 災害を常に自分事として

村松 最後は皆さんから震災に備え、伝えておきたいことを一言ずつお願いします。蓬菜 他、場所によって異なる災害を常に自分事として考えることが大切だ。家で閉じ込められたとき大声を出して助けを求めると体力が失われるので、代わりに笛を使うとよい。笛は100円ショップで売っているので、せめてお風呂に置いておきたい。

平山 阪神・淡路大震災という未曾有の災害を経験したことで、地元とともに歩む共生の大切さを実感した。兵庫協では社会貢献活動として福祉車両「はあ〜とふる福祉号」を県内の多くの市町に贈呈したほか、保育事業として明石市内に保育園を開校した。私たちの精神である「団結と地域社会との融和」を胸に刻み、輝く未来に向かって、業界と地域社会の絆を深めるため、日々精進していきたい。

村松 震災後、兵庫県遊技業協同組合ではどのような取り組みをしたのか。平山 組合では13人の関係者が亡くなり、約300軒のパチンコ・パチスロホールが大きな被害を受けた。ホールの中には、被災者に洗濯機を無料で貸し出したところもある。一時避難場所として開放したところもある。また、ホール関係者、従業員ら約330人が献血を行った。

長沼 私には自宅をたんとすと本棚の下敷きで生き埋めになり、家族に助け出された。家は全壊し、しばらく避難所から取材活動が続けた。震災報道でたどってきたことの一つは能登半島地震でも問われた住宅の耐震化だ。家を守ることは命を守る。家屋が倒壊すると救助車両が近寄れなくなる。他者を助けるためにも耐震化は重

村松 ゼミの学生が、阪神・淡路大震災の語り部の方の被災経験を基に絵本、紙芝居、映像などの教材を作っている。紙芝居「げんきくんのゆめ」は、震災当時小学校2年生で、母親と下の弟を亡くされた長谷川元気さんの話を基に作った。伝えるためにはしっかりと知ることが大切だ。そうすることで学生も自分の日常の体験に重ねて当事者の気持ちに少しも近づけることができる。紙芝居は小学校



阪神・淡路大震災時、県遊技業協同組合関係者約330人が献血に協力した

てリビング、寝室、トイレの3カ所に置いておくこと。船木 神戸は29年前に大きな震災に遭ったけれども今はこうなっているというのを伝えることで被災地の希望になれる。また経験をしっかりと伝えていくことで防災の原動力になるように活動を継続していきたい。

長沼 同じことを繰り返さないよう、次の世代、他の被災地の方、これから災害に遭われるかもしれない方にどう伝えていくかが課題だ。身近なところでは、小学校1年生の娘に、まずは「パパは本棚とたんすのある部屋では寝ないようになっている」と伝えるところから始めている。



船木伸江氏



平山龍一氏

村松 船木さんは地震を知らない世代に教訓を伝える活動をして要だ。もう一つは、震災関連死を防ぐことだ。地震で助かった命がその後の苦難で奪われるようなことはあってはならない。

船木 震災当時小学校6年生で明石に住んでいた。神戸で被災した転校生が、お母さんに「あなただけが逃げなさい」と言われ、逃げざるを得なかった話をしてくれました。だから同じ思いをさせたくないからこその語り継いでいくことが大切だ。



神戸学院大・船木ゼミの学生が、被災者の体験を基に制作した絵本、紙芝居などの教材

船木氏 経験伝え防災の原動力に 平山氏 地域と絆深めるよう精進

空を見上げてく〜いまだから伝えたい大切なこと〜 気象予報士・防災士 蓬菜 大介氏

基調講演 1980年代と比べると、道路冠水レベルの雨が全国で2倍、35℃以上の猛暑日は3倍以上増えている。これにより豪雨災害が頻発化し、激甚化している。2018年7月豪雨では、神戸で3日間の雨量が400mmに達し、14棟が全壊、21棟が床上

警報が出たら 災害に意識を

南海トラフ地震が30年以内に70%の確率で起きると言われている。神戸は震度6強が予想され、能登半島地震のような地震が全国同時多発的に起こる。助けを期待するのは難しく、自分の命は自分で守らなければならない。自分の住むエリアのどこで土砂災害が起きやすいのか、どこに避難所があるのかはハザードマップで確認できる。今すぐチェックしてほしい。



南海トラフ大地震発生時の地震速報のイメージ図

私たちは、未来に向けて 平和で住みよい社会づくりをめざしています。

POS C 一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構
<https://posc.or.jp>
https://twitter.com/posc_info

一般社団法人パチンコ・パチスロ社会貢献機構は、社会貢献事業が社会を支える極めて重要な活動であるとの観点に立ち、遊技産業並びに公的機関、民間団体と連携しながら、文化・芸術の振興や平和で住みよい社会づくりに貢献する事業への助成や社会貢献活動の顕彰を主な活動としています。

私たちは、社会に役立ち必要とされる事業や活動をサポート・応援しています。

助成事業 今日社会に最も必要とされる活動に対する助成事業は当機構の根幹事業です。毎年子どもの健全育成や災害復興支援など、社会貢献に真摯に取り組んでいる活動に対し、助成を行っています。

- 2020年度助成事業「フィッシュシェアリング」事業 特定非営利活動法人 武庫川ECO-LABO
- 2022年度助成事業「キャンブル等依存症者及びその家族への総合的継続支援」事業 神戸ダルクヴィレッジ

顕彰事業 遊技業界が全国各地で実施している社会貢献活動を報告していただき、今後の一層活発な活動を期待し、最も優れた取り組みに対して、平成17年から「社会貢献大賞」を授与して顕彰しています。

- 第17回社会貢献大賞「クリーンエネルギー推進を目的とした設備設置(レンタサイクル・電気自動車用充電器)」事業 株式会社玉屋
- 第18回社会貢献大賞「神奈川県が行うオンライン避難民支援事業に対する支援」事業 神奈川県遊技場協同組合